

私は2016年2月に肺がんの診断を受けて手術をしましたが、がんの切除ができずにそれ以来、化学療法として投薬での治療を続けています。

ステージ4ですが今のところ入院はせずに仕事も生活も続けています。

先日、スマホを機種変更する事となり携帯会社にデータの移行を依頼したところ、ボイスレコーダーはデータでの移行はできないと言われました。

仕方なく既存のスマホから録音データを再生して音を出し、近くに置いた新しいスマホにその音を録音させるというアナログかつ原始的な方法によりデータの移行を行う事にしました。

その際に、途中で音が途切れたり操作がうまく作動していない事を防ぐために、無事に録音が完了するまでスマホの傍で再生された音を聞く事になってしまいました。

その時のボイスレコーダーの録音された内容は、2年8か月前にがんセンターで聞いた瀬戸先生の今後の私の診療についての説明でした。それまで、3年間飲んでいた「タルセバ（一般名：エルロチニブ）」が効かなくなり肺にがんによる水が溜まり始めて、その結果、治験も終了して更に新しい投薬の選択ために行った検査の結果を待っているという状況で行われたもので、先生に許可を頂いて内容を録音していたのです。その時、妻と長男も一緒に聞いていた事を思い出しました。

私はスマホの録音データを聞く事で、突然忘れかけていた2年8か月前の緊迫した空気の診察室の中にもう一度身を置く事となったのです。

瀬戸先生の説明は、慎重で丁寧でしたがまだ検査結果が出ていない事もあり楽観を許さないものでした。検査の結果が適合すれば「タグリッソ（一般名：オシメルチニブ）」の投薬のみでの治療と

なるが、適合しなければ他の薬と抗がん剤の併用での治療となる事の説明があり、後者であれば投薬の都度3日間の入院となる上に強い副作用が伴うとの事でした。それは、自分にとって仕事も生活も一変する事を意味していました。

結果的に検査の結果「タグリッソ（一般名：オシメルチニブ）」の服用ができる事となり、多少疲れやすい事以外は以前と変わらずその後を過ごす事ができる事となりました。

仕事と生活に追われているうちに、いつしか2年8か月前に検査の結果を待っていた時の体と生活への不安の日々の事は忘れてしまい、今の生活が当たり前の様に思えてきて、時にはがんになる前のように仕事や生活に対する不平不満を感じながら日々を過ごす事がありました。

そんな時に、スマホの録音データをたまたま聞いた事により、あらためて今の生活が検査結果といういわば偶然の結果保たれているものだと思出す事ができたのです。「今の日々はたまたま幸運にも与えられているだけで、もしかしたら検査結果次第では抗がん剤治療の併用により会社にも家族にも迷惑をかけて仕事自体続けられなかったかもしれない」と思い直す機会を得る事ができました。

その事により、不平不満ではなく今生かされている事を感謝してもう一度原点に戻り、今の自分にとって何が大切なのかどう時間を使ったらいいのかを考える様になりました。

完治する病気では無いので、いずれ抗がん剤投与が始まり、本当の意味でのがんとの闘いの日々が始まる時は来るとは思っていますが、今は今生かされている事を大切に考えて生活をしていこうと思っています。病院の治療にもあらためて感謝を感じています。家族の存在にも会社の理解にも感謝を感じています。もちろん長く生きていたいとは思いますが、まずは今をしっかりと納得をし

て生きていきたいという気持ちです。

最後に余談ですが、録音を聞き直すと瀬戸先生がせっかく私の体のために今後の治療の説明をされているのに、私はろくに聞こうとせずに「仕事はできますか」「会社に言わないといけない」「すぐ入院はできない」等、仕事の心配ばかり先生に訴えているのがわかり、自分ながら愕然としました。今回の機会ですべてに自分には仕事病という病気もあるのだと感じて、人としての生き方の治療の機会にもなった事をつけ加えておきます。

今回、この様な文章を書く機会を頂いた事に感謝いたします。

2021年9月26日

のぶのぶ